

# 平成 28 年度浙江省友好交流員レポート（9 月）

浙江省友好交流員 三澤拓巳

杭州に到着して約 3 週間が経過し、少しずつ生活も慣れ充実しています。やはり国が違えば、人も違うため日本や日本人との違いを毎日のように発見し戸惑いながらも、これが留学の醍醐味でもあるのだと感じています。「郷に入っては郷に従え」の考えのもと奮闘しています。

また、中国の方々は非常にやさしく、中国語があまり話せないにも関わらず私達を快く歓迎してくれました。先日も浙江省外事弁公室の方々が歓迎会を開いてくださり、おいしい浙江料理をいただきました。

これから 2 月までの短い間ではありますが、「中国語・中国文化」そして「浙江省」を勉強して、日本に帰国したいと思います。

さて今回のレポートですが、最初なので滞在先である「杭州市」で一番有名な「西湖」をテーマとしたいと思います。

2011 年に「杭州西湖の文化的景観」としてユネスコ世界遺産に登録された西湖は古くから、多くの人々に愛されました。唐の白居易や宋の蘇軾（蘇東坡）が西湖の整備に関わり、中でも蘇軾はその美しさに惚れ西湖を題材とした詩を詠んだことでも有名です。

私も杭州に来て 3 回ほど西湖を訪れました。昼・夕・夜の異なる時間に訪れたため 3 回とも全く異なる西湖の姿を見ることができました。1 回目（9 月 13 日）は昼間に訪れましたが、G20 の開催地として世界的に有名になった影響で中国人観光客だけでなく外国人観光客も多く、非常に賑わいを見せていました。2 回目（9 月 16 日）は、同じ栃木県の交流員と共に夕方、訪れました。やはり人は多いですが、湖面に写る夕日がきれいで感動しました。3 回目（9 月 25 日）は浙江大学に本科生として通う成田博熙さんと共に夜の西湖へ。G20 の前後からライトアップされているため幻想的で、特に「断桥」は一見の価値があります。

たったの 3 回では西湖周辺のスポット全てを回るなど到底できず、まだまだ西湖を理解するためには何度も通う必要があると感じました。また、事前に勉強した状態で訪れたほうが何倍も楽しめることも分かったので、次回は事前学習をして訪れたいと思います。

最後に、G20 の開催地になったことで世界的にも有名になり、市内も交通手段やインフラが急速に発達し、生活するには非常に便利になったと感じます。その反面、急激な人口増加や交通渋滞が起きているため、開発や発展に伴う弊害やジレンマというものを肌で感じることができました。これからの杭州生活でも、小さな発見から大きな発見までたくさん見つけていきたいと思います。

以下には今月撮影した写真から数枚を紹介します。



私たちが通う「浙江大学」。本科生だけでなく、留学生も大変多く、国際色豊かです。私たちは浙江大学の「国際教育学院」というところで、他の留学生と共に中国語の学習に励んでいます。



昼間の西湖。広大な湖は対岸がはるか遠くに感じます。観光客は多いですが、場所によっては人が少なく西湖を静かに鑑賞できます。

この日は曇天ですが、晴れているときに、もう一度訪れたいです。





夕方の西湖。西湖を一目見ようと、観光客から地元の人まで多くの人が集まっています。  
夕暮れの西湖は幻想的です。



夜の西湖。ライトアップされた西湖はととてもきれいでした。下の写真の奥が「断桥」です。「断桥残雪」として西湖十景にもなっている断桥は「白堤」の北端に架かる橋です。  
(写真撮影者：成田博熙さん)

